

第2回 だざいふ景観賞の概要

市内の良好な景観形成に資する建築物等を顕彰することで、太宰府市が推進している景観まちづくりの啓発を行うとともに、太宰府市内における景観水準の向上を目的とする。

●太宰府における景観とは？

私たちの目に映る、太宰府を形づくる様々なものが景観です。例えば、四王寺山などの山や御笠川などの河川、そして太宰府の歴史を物語る都府楼跡や太宰府天満宮などの文化財、人々が行き交う道路や住まう建物等です。さらに、これら太宰府らしい景観をつくり出す人々の活動も含めて、太宰府の景観と考えています。
※見る側の個性的な見方ではなく、景観をつくり出すモノや活動が景観賞の対象です。

募集・選考

●作品募集

期間・平成27年5月1日(金)～6月30日(火)

応募方法・郵送、電子メール、市役所都市計画課窓口での書類受付

●市民人気投票(本審査のための参考資料)

期間・平成27年8月4日(火)～8月31日(月)

方法・市内公共施設5ヶ所に応募作品一覧表を提示、市内外の来場者による任意の投票

回収した投票用紙数・332枚

●審査

期間・平成27年10月中旬から12月中旬

審査員・太宰府市景観・市民遺産審議会委員(15名)

方法・全応募作品を共通採点項目に基づく採点后、第9回太宰府市景観・市民遺産審議会にて各賞を決定

受賞作品は本紙1、2ページをご覧ください。

第3回だざいふ景観賞を平成28年度に開催します。5月頃(予定)に市公式ホームページ・市政だより・ポスター・チラシなどでお知らせいたします。皆様からのたくさんのご応募、お待ちしております。

審査員講評

第2回景観賞が決まりました。市民の皆さんからも多数のご支持のあった「宝満宮参拝隧道」は物語り性も豊かであり、長く残していきたい景観です。このほか、市民の発案でいしへの学業の場所に移植された孔子ゆかりの地から渡来の際の木、設計の段階から景観配慮の協議が重ねられた現代住宅、参道や都府楼跡から離れた場所ではあっても残されている日田街道ぞいの赤煉瓦塙と白壁のモミ蔵と、今回は、多様なあふれる景観賞の表彰とすることができました。これも熱心に応募くださった皆様のご協力の賜物でした。心から感謝いたします。

こんな景観がある、と気づくことが景観づくり、景観保全の第一歩です。これからの末永く太宰府市の景観賞の制度が続くことを願っています。

太宰府市景観・市民遺産審議会 会長
浅野 直人(福岡大学名誉教授)



太宰府市建設経済部 都市計画課
景観・歴史のまち推進係
〒818-0198
福岡県太宰府市観世音寺一丁目1-1
電話 092-921-2121
Eメール urban-planning@city.dazaiifu.lg.jp

第2回

だざいふ 景観賞

受賞スポット

百年後も
「古都太宰府の風景」
が映えるまち

「あいさつ」
日頃より、太宰府市の景観行政にご協力いただき厚く御礼申し上げます。本市では太宰府市景観計画を平成二二年に策定し、昨年からの取り組みを始めました。このだざいふ景観賞も本年で二回目を迎えることが出来ました。
今回も市内外問わず、たくさんの方の皆さまのご応募をいただき、合計二十作品の中から四つの作品が選ばれました。受賞作品は、物語性をもつものから、景観まちづくり計画と深く関係を持つもの、太宰府市の自然など、多様な物件が受賞作品となりました。
今後とも太宰府の個性ある景観を百年先まで引き継ぎ、守り、育て、そして創造していくため、市民・事業者の皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。
結びに、審査をしていただきました、景観・市民遺産審議会委員の皆様、ならびに関係者の皆様方のご協力に感謝申し上げますとともに、受賞者並びに応募者の皆様方の今後益々のご活躍を心からお祈りいたします。



太宰府市長
芦刈 茂

第2回だざいふ景観大賞



宝満宮 参拝隧道【昭和3年築造】

所有者 西高辻 信良 発注者 麻生 太吉（故人） 請負者 古賀 朝幸（故人）
 選定理由 歴史に富んだ建造物であり、隧道開道に関わりのある人々の物語も貴重である。そんなストーリーと受け継がれてきたからこそ醸し出している空気感が大賞にふさわしい。

第2回だざいふ景観賞への多数のご応募ありがとうございました。
 「太宰府の景観を創っている素敵なお作品」として応募をいただいた作品の中から選考を行った結果、各賞が決まりました。

前回受賞作品



だざいふ
景観大賞

市長賞



学校院跡のカイの木【平成9年植樹】

所有者 太宰府市 植樹提案者 馬場 宣彦（故人）
 選定理由 中国から太宰府天満宮にゆずられたカイの木は当時市内13ヶ所に植樹された。平成27年の台風で倒木があり、現在一本となっているが、このカイの木が持つストーリーを思いめぐらせると市長賞にふさわしいと選定した。



市長賞

景観賞



KANZEONJI 格子の家【平成26年建築】

所有者 佐藤 正則
 設計者 株式会社 山田デザイン研究室
 選定理由 市の景観計画における育成地区内での現代建築物において歴史性を感じさせてくれる外観となっており、景観計画を考慮したうえでの設計に、所有者・設計者の景観に対する意識の高さがうかがえる。



景観賞



初倉と赤レンガ塀【初倉：大正7年建築】

所有者 陶山 真弘
 選定理由 初倉と赤レンガ塀については、日田街道に沿って古い時代から現代につながって、その時代の変遷を想起させる。レンガ塀というものが景観として効果的な役割を果たしている。



景観賞